

第二部 国家公務員一般職試験 体験記

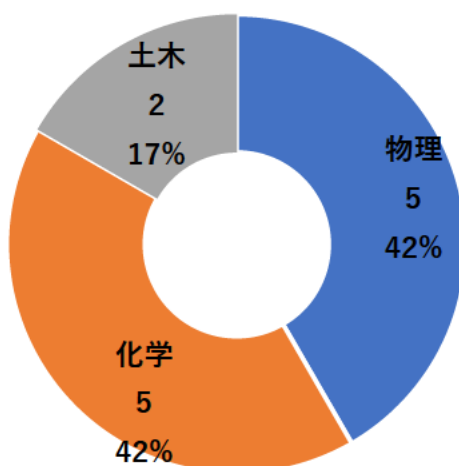
■ はじめに

第二部では、内定者2名による国家公務員一般職試験の勉強・対策方法をお伝えします。なお、本冊子に記載している試験方法や内容は、2021年度内定者が受けた試験について述べたものであり、次年度以降の試験とは異なる可能性があります。特に、2020年度の試験は、新型コロナウイルス感染症の影響により、試験日程が例年と異なっていますので、注意してください。また、勉強方法や選択問題のおすすめ等については、あくまでも内定者個人の見解に過ぎず、もし事実と異なった場合でも責任はとりかねますことをご了承下さい。あくまでも、本冊子は参考としてご覧いただければ幸いです。

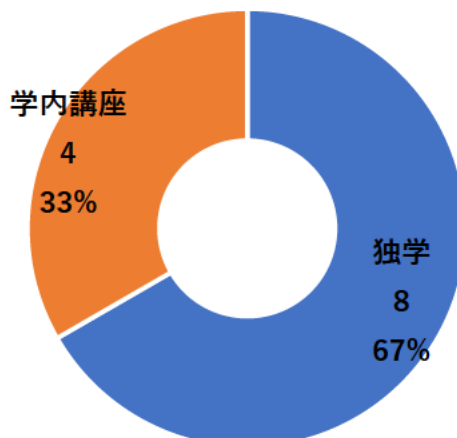
■ 過去5年分 一般職理工系内定者の内訳

(グラフは過去5年間の統計を示しています。実際の人数、割合の順に示しています。)

試験区分 (過去5年間)



勉強方法 (過去5年間)



■ 国家公務員一般職試験の内容の簡単な説明

試験区分には、専門科目による区分が存在します。また、試験は大きく2つに分けられ、「一次試験（マーク式試験＋記述式試験）」、「二次試験（人物試験）」があります。これらの筆記試験の過去問は人事院に請求することで入手できます。

一次試験

基礎能力試験

いわゆる教養試験で、全問必須解答の40題です。問題は多岐に渡っており、国語力や英語力、頭の柔らかさ、知識力などが試されます。マーク式です。

専門試験（多肢選択式）

マーク式で、必須問題と選択問題とに分かれており、40題です。大学、大学院の試験や入試が選択式になっているようなイメージです。選択する専門区分によって形式が異なるのでよく確認が必要です。ここの配点が高いので頑張りましょう。

専門試験（記述式）

選択した専門分野で出題されたテーマに対し、社会的な問題等を織り交ぜてA4用紙1枚に自分の意見を論ずる論述問題です。時間は1時間です。集中力の維持と短時間での記述能力が大事になると思います。

これら3つの試験はすべて同日に行うので、長丁場の体力勝負はここから始まっているように思います。

二次試験

上記の1次試験に合格後、2次試験へと進みます。

人事院面接

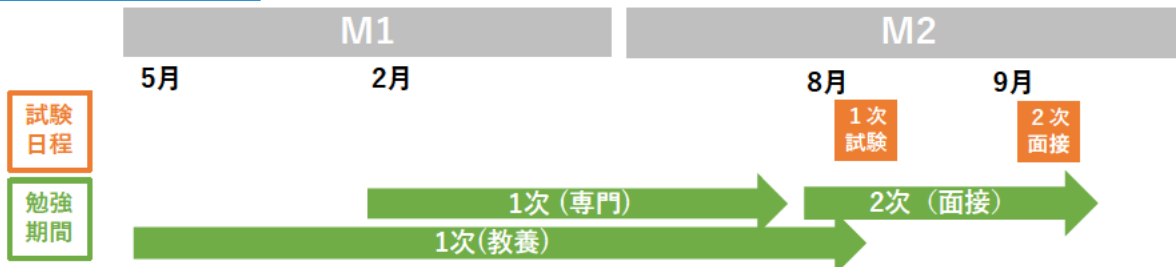
当日までに面接カードを記入して、基本的にその内容に沿って質問される個人面接です。面接時間はおおよそ10～20分程度で、面接官は3人（人事院の方と各省庁の現役の方らしい）です。基本的にこの面接カードに沿って質問されますので書いた内容をよく頭に入れておくとういと思います。

※2020年度の試験では、試験日程が例年と異なっています。内定者の体験記については、これらを踏まえた上で参考にして頂ければと思います。

ミハイル（物理区分/修士/2020年度※コロナのため異例）

～大学所在地：大阪府 / 工学研究科 量子放射線系専攻～

スケジュール



自分の就職活動の軸を見定めながら、公務員試験と民間就活の両輪で取り組んでできました。M1夏～M2春まで民間就活でインターンシップに参加しながら、M1の夏頃から大学生協の公務員講座を利用して教養の勉強を始めました。3月からはその両輪に学会を加えた3つを並行して進めたので、正直体力的にも精神的にもかなりキツかったです。ただ民間就活を通して自分の就職活動の軸を見つけることができたので、プレずに試験対策に取り組めたこと、試験の延期が行われたため勉強量を確保できたことが合格の要因です。

教養・専門・面接・論文の勉強量バランス

教養 50%	専門 40%	面接 10%
-----------	-----------	-----------

M1の2月までは公務員講座を週1～2回のペースで受け、特に苦手だった数的処理の講座の復習に100%注力しました。2月以降は専門50%、数的処理40%、その他の教養科目10%の割合で勉強しました。専門科目に関しては2月上旬からスーパー過去問ゼミを使って取り組み始めました。専門科目の過去問をやる際は大学時代の教科書、ノート、プリントがすごく役に立ちましたので大切に保管しておくことをお勧めします。

試験結果

- ・ 席次 上の中
- ・ 英語加点 あり（25点）

利用してよかったもの

- ・ スーパー過去問ゼミ（工学の基礎、機械）
- ・ 公務員講座でもらった過去問
- ・ 公務員講座のテキスト

各試験の具体的な対策

■ 教養1次

教養については公務員講座で配布されたテキストのみで勉強しました。特に数的処理についてはテキストをひたすら反復しました。文章理解と資料解釈については、数問を定期的に解くようにして、講座で学んだことを忘れないようにしていました。時事については大学の図書館で毎日新聞を読む時間を作り、習慣化して対策しました。

■ 専門多肢（工学の基礎、機械力学、放射線物理）

工学の基礎についてはスーパー過去問ゼミ（工学の基礎）で数学・基本的な物理の内容を網羅するように勉強したことで、うまく復習が行えました。工学の基礎以外の部分については、学部時代に機械系の航空宇宙工学を学んでいたもので、スーパー過去問ゼミ（機械）を使って、機械工学を中心に大学時代に学んだ知識を見直し、弱い部分は当時の教科書を読み返すなどしました。

■ 専門記述

公務員講座の授業と模試以外では対策はしていません。大学生協の公務員講座で論文対策の授業中に先生が例としていくつか挙げていたテーマが本番で運良く出題されたため、その先生に感謝しながら、焦ることなく書くことができました。

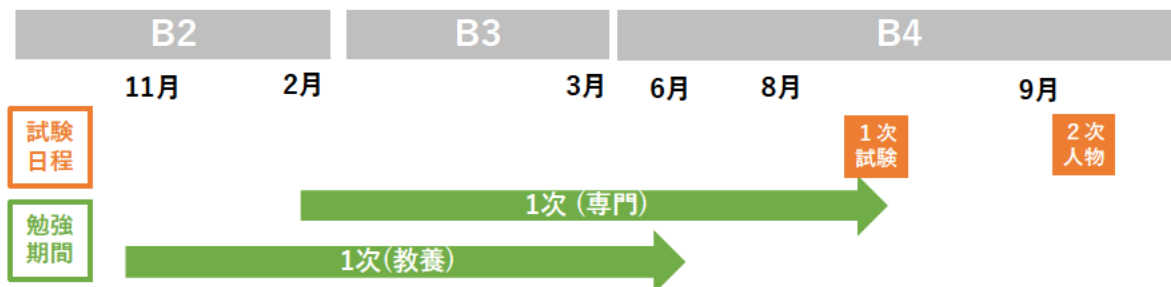
■ 人事院面接

総合職試験でも人事院面接を受け最終合格していたので、話す内容や話し方については心配なかったです。公務員講座では担当者の方に面接カードを何度も添削してもらいましたし、面接練習も行ってくれたので、入室の仕方から面接中の姿勢、退室の仕方まで本番を想定した練習ができ、本番では力を存分に発揮できました。

トサッコ（化学区分/大卒/ 2020年度※コロナのため異例）

～大学所在地：愛知県/生物環境科学科～

スケジュール



B2の冬から数的処理・判断推理の勉強を始め、B3の6月から大学の公務員講座でその他の教養の勉強を始めました。専門科目はB2の2月ごろから、過去問を使って勉強を始め、大学の教科書や図書館で借りた問題集を使いながら勉強を進めました。B4の6月以降は専門科目中心に勉強し、苦手分野対策に力を入れました。

教養・専門・面接・論文の勉強量バランス



大学で化学を専門で学んでいるわけではなかったため、専門対策は特に時間を割いて勉強しました。教養科目は一通りの範囲は勉強しましたが、その後は頻出単元や得意科目で点数をとれるように範囲を絞って勉強しました。面接対策では自分の思いをしっかりと盛り込むことを重視し、その上で簡潔かつ分かりやすい表現になるように修正を重ねていきました。

試験結果

- ・ 席次 上の下
- ・ 英語加点 なし

利用してよかったもの

- ・ 市販の専門科目（化学）対策問題集
- ・ 大学図書館で借りた問題集
- ・ 人事院から取り寄せた過去問5年分（教養・専門）

各試験の具体的な対策

■ 教養1次

公務員講座で配布されたテキストや問題集を使って勉強を進めました。自然科学、文章理解は得意だったため、それ以外の科目を中心に勉強しました。科目数が多いので、ポイントチェックできる教材で大まかに勉強し、わかりにくい部分があれば教科書などで調べるといった勉強をしました。時事問題は2月以降に出る「速攻の時事」を使って勉強しましたが、社会科学や人文科学の知識がとても役に立ちました。教養科目の過去問で6割が安定して取れるようになったら、専門対策に力を入れるようにしました。

■ 専門多肢

教材は主に「工学の基礎 攻略問題集」、「スーパー過去問ゼミ 化学」と過去問を使用しました。私は大学で化学専攻ではないので、知人や図書館から教科書や問題集を借りて、頻出問題に関する基本知識をノートにまとめることから勉強しました。その後は、過去問演習と教科書復習を繰り返して対策しました。覚えにくい公式やキーワードは暗記カード代わりにアプリを利用して、電車の待ち時間や部活の隙間時間に復習するようにしていました。

■ 専門記述

本格的な対策はほとんどしていません。模試と公務員講座の練習問題を活用して、文字数や文章構成に気を付けて数回練習しました。

■ 人事院面接

官庁訪問で話した内容を簡潔に伝えられるように、志望動機や自分の強みを何度もブラッシュアップしました。初めての対面面接だったため、入退室や軽い質疑応答の練習を数回行いました。姿勢や話し方などを見て、相手がどう感じるか具体的にアドバイスをもらえることで、自信もついたので練習は大事だと思いました。